

## 送別の辞

総務省職員を代表して、新藤大臣を始め、退任される政務三役の皆様に対し御礼のご挨拶を、高市大臣を始め、新任の政務三役の皆様に対し歓迎のご挨拶を申し上げます。

### 【新藤大臣】

新藤大臣は第二次安倍内閣発足以来1年8カ月余りの御在任でありました。在任中のご功績の一端を申し上げ、感謝の意を表させていただきます。

大臣は就任後直ちに、安倍内閣の使命を果たすため、総務省の施策を分かりやすく、ミッションという形で目標化し、その実現のためのアプローチを具体的に指示されました。直後の予算編成で、経済対策の迅速・円滑な実施を図るため、大臣が創設された1.4兆円の「地域の元気臨時交付金」は、大臣のネーミングも話題になり、地方団体に大変歓迎されました。

また、平成25年度の地方公務員給与を国家公務員並みに減額する措置につきましては、大臣自ら地方6団体の代表に丁寧に説明を重ねられたことが、地方団体の理解に繋がりました。

ご在任中の総務省提出法案は22本、内閣府特命担当大臣として提出された法案が4本、合わせて26本の法案全てを成立させて頂きました。国会における答弁の回数は2531回に及んでおり、驚異的な回数であります。

大臣は「時代を拓くカギはICTによるイノベーションにある」という御考えを明確に示されるとともに、行政のICT化の徹底を説かれました。Eガバメント閣僚会議の創設を唱え、電子政府の推進をリードされました。また、効率的で質の高い行政を実現させるため、政策評価と行政事業レビューを連携強化することにより政策評価の標準化と重点化を推進されました。

行政不服審査制度については法制定後52年ぶりの抜本改正を成し遂げて頂きました。

政府統計についても新機軸を打ち出され、来年の国勢調査では「ビッグチャレンジ」として世界最大規模のオンライン調査を実施することとされました。

大臣はICTによる我が国の成長戦略に大変熱心に取り組み、まず「ICT成長戦略会議」と「G空間のプロジェクトとICTの掛け合わせの推進会議」を開催し、G空間情報やビッグデータの活用を推進するとともに、4K・8K放送前倒しのロードマップを策定されました。またインフラとアプリケーションのパッケージ展開等により海外売上拡大を目指す「ICT国際競争力強化・国際展開イニシアチブ」を策定されました。

地デジ日本方式の国際展開については、大臣のトップセールスで在任中に6カ国が日本方式を採用することとなりました。ICT海外展開に当たっては、16カ国を訪問され、そのうち9カ国は総務大臣として初訪問であるなど精力的な取り組みをいただきました。

また、大臣は就任時から「地域の活性化なくして日本の再生はない」と主張され、「地域の元気創造プラン」を策定し、推進されました。「総務省は事業官庁たれ」という大臣のお考えの下に、地域経済イノベーションサイクルを実現する交付金事業を創設されました。

また、地域活性化の推進に関する閣僚会議を新設され、地方の課題を関係省庁で総合コンサルタントする地域活性化プラットフォームを構築されました。

平成25年度、26年度の地方財政対策においては、地方一般財源の総額を確保し、地方団体の強い要請に応じて頂きました。また税制改正では、地方法人課税の偏在是正と車体課税の見直しに御尽力頂きました。

大臣はお忙しいスケジュールのなかで、努めて東日本大震災の被災地をはじめ、地域活性化に取り組む地域を訪問して、激励されました。総務大臣初訪問の市町村も多く、現地では行政相談委員や郵便局員、地域おこし協力隊員らと意見交換を行い、現場の声を汲み取って頂きました。

地方分権改革については、20年目の節目に当たり「個性を活かし、自立した地方をつくる」というキーワードの下に「総括と展望」をまとめられ、大臣の発想により、地方の発意を尊重する提案募集方式を導入されました。大臣の御尽力で市町村長と総理大臣の懇談会が総理官邸で初めて開催されたのも、大臣の地方重視の姿勢の表れです。

安倍内閣の目下の重要課題である地方創生と人口減少の克服については、「総務省まち・ひと・しごと創生推進本部」を設置され、来年度予算要求に当たり、大臣のイニシアチブで自治、テレコム、行政管理の施策を横串で通して纏めて頂くとともに、地方創生推進交付金と地方交付税率の引上げの事項要求を盛り込んで頂きました。

消防行政では、消防団員の確保について、大臣自ら首長宛てに2度に亘り書簡を出していただくとともに、消防団員の処遇改善と装備の抜本的な拡充を図られました。

また、コンビナート災害に対応するため、大臣の命名により創設されたドラゴンハイパー・コマンドユニットなど緊急消防援助隊の拡充を図られました。

全てのグループホームや診療所におけるスプリンクラーの設置義務化と診療所への「ICTを活用した防火チェックシステム」の導入は、大臣の強いリーダーシップによるものであります。

大臣には、ご在任中に、数えきれないほど多くの功績を残していただきました。

大臣のお仕事振りは、質的にはもとより、量的にも圧倒的なもので、大臣の御尽力により、総務省のイノベーションは大いに進みました。

改めて厚く御礼申し上げます。今後は総務省の応援団長として御支援を頂きたく、宜しく御願いたします。